

第1回定例会(3月7日)

■株式会社津別ファーム

昨年経営破綻した(株)安愚楽牧場(栃木県那須塩原市)の直営牧場であった津別牧場につきまして、1月17日、(株)津別ファーム(平成23年12月13日設立 代表取締役 上野信之)に牧場全体の事業譲渡が行われたところであります。今後の順調な経営に期待するところです。

■PPPの影響と暮らしを考える町民集会の開催

2月16日、中央公民館に250人が参加する中、東京農業大学長澤真史教授より講演をいただき、PPPへの参加がもたらす地域への影響を再確認したところです。

引き続き関係団体と連携を図りながら、地域産業を守るためPPP交渉参加への反対運動を展開していきます。

■死亡交通事故ゼロ日運動

平成22年3月21日を起算日として取り組んできた死亡交通事故ゼロ日運動は、2月18日に700日を達成しました。

次の目標を1千日(達成日平成24年12月14日)と定め、この運動を推進する決意ですので、皆さんのご協力をお願い申し上げます。

■木質ペレット製造施設の復旧

昨年11月29日に発生しましたペレット製造施設の火災につきまして、津別消防署で火災原因の調査が行われ、「ドラム缶の取灰をフレキシブルコンテナバックに移し替え物品置場に置いたフレキシブルコンテナバック付近から出火していることから、本火災の出火源は取灰と判定するが、取灰の燃焼経過及び着火物を立証する物的証拠が得られないことから出火原因については不明とする。出火時間についても経過、着火物が特定できないことから不明とする。」との判定結果の報告を受けたところです。

また、復旧工事は昨年12月27日に発注し、3月1日に工事完成の受け渡しを行ったところ

です。

今回の火災により、皆様にご迷惑をお掛けしましたことを、指定管理者のペレット協同組合ともども改めてお詫びを申し上げますとともに、再発防止に向け対策を講じ、暖房用燃料の安定供給と適切な管理運営に努めていきます。



◎その他報告された事項

■寄附 ■成人式 ■第16回カレンダー展示即売会

■季節労働者の冬期就労支援 ■全道リコーダーコンテストの結果 ■第35回冬季町民スポーツ大会 ■みなと森と水サミットへの参加

■流水の日キャンドルナイトの取り組み ■都道府県対抗トランポリン競技選手権大会 ■災害対応型自動販売機による協働事業

に関する協定 ■第51回全国青年農業者会議 ■建設工事等の発注状況

第1回定例会(3月14日)

■上水道配水管本管の折損事故

3月7日、午後10時過ぎ、高台配水場からの配水管本管が折損し、市街地の広い範囲にわたり断水や水圧低下が起きました。被害戸数は約1千500戸で、断水の影響により津別小学校及び津別中学校が休校、青葉幼稚園が休園となったほか、公衆浴場、給食センターも休止となりました。

事故の詳細は7日、午後10時12分、高台配水場の配水流量の異常を知らせる警報が鳴ったことから調査を行い、午前零時ころに豊永1番地7地先で漏水を発見しました。漏水したのは口径200ミリの硬質塩化ビニール製の配水管本管で、長さ2メートルほどの亀裂が入っていましたが、原因については不明です。

給水活動は、近隣市町に給水車の派遣依頼を行い、午前6時から市街地内7箇所給水所を設置するとともに、広報車4台による広報とホーム

ページに事故の状況と給水場所に関する掲載を行ったところです。

復旧作業は、漏水箇所が民家と水路の間の狭い場所であったことなどから難航しましたが、午後2時少し前に完了したところです。

本管の接続完了とともに通水作業を開始しましたが、一気の通水は2次災害を招く恐れがあるため、配水流量を調整しながら時間をかけ、午後6時ころに全面復旧となったところです。

この度の水道事故で、多くの町民の皆様や町内の企業・店舗に対し、多大なご不便とご迷惑をお掛けする事態となり、深くお詫びを申し上げます。

関係市町や深夜からの作業に従事していただいた建設業者の皆さんなど、関係各位に厚くお礼を申し上げますとともに、給水活動においては町民の皆様の冷静な対応とご協力により、混乱なく進めることができましたことに対し改めて感謝を申し上げます。

◎その他報告された事項

■北海道木材利用施設コンクール

常任委員会
特別委員会

委員会活動

各常任委員会・特別委員会は議会の閉会中も委員会を開催し、所管事務について協議しています。

総務文教常任委員会

第1回（2月23日）

- ・印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正について
- ・手数料徴収条例の一部改正について
- ・交通指導員設置条例の一部改正について
- ・第2次機構改革について
- ・職員給与（経過措置の取扱い）について
- ・町有地の貸与（消防救急デジタル無線関係）について
- ・北海道市町村総合事務組合規約の変更について



役場庁舎カウンターは色分けと業務内容を表示

産業福祉常任委員会

第1回（2月24日）

- ・環境基本計画等策定の概要について
- ・過疎地域自立促進市町村計画の一部変更について
- ・多目的活動センターについて
- ・寄贈建物（島崎跡）の利用について
- ・平成24年度各会計予算原案の概要について
- ・町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について
- ・まちなか団地財産取得について
- ・木質ペレットストーブ導入支援事業の拡大について
- ・木質ペレット製造施設復旧工事について
- ・第5期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について
- ・第3期障がい福祉計画について
- ・ドクターヘリ事業について
- ・へき地保育所条例の一部改正について
- ・乳幼児等医療費の助成に関する条例の一部改正について
- ・重度心身障害者及びひとり親家庭等医療費の助成に関する条例の一部改正について

議会運営委員会

第1回（3月2日）

- ・介護保険条例の一部改正について
- ・介護予防・生活支援事業条例の一部改正について
- ・ワクチン接種緊急促進事業実施要領の一部改正について
- ・環境基本計画等策定の概要について
- ・平成24年度各会計予算原案の概要について

議会広報特別委員会

第14回（4月12日）

- ・議会報140号の編集について

第2回（3月12日）

- ・第1回津別町議会定例会の運営について
- ・陳情の取り扱いについて
- ・奨学審査委員会委員の推薦について

- ・第1回津別町議会定例会の運営について
- ・第3回（3月15日）
- ・第1回津別町議会定例会の運営について
- ・追加議案の取り扱いについて

議会日誌

2月

- 15日 第1回全員協議会
- 16日 T P Pの影響と暮らしを考
える町民集会(津別町)
- 23日 総務文教常任委員会
- 24日 産業福祉常任委員会
- 26日 T P P交渉参加断固阻止！
オホーツク総決起集会
(網走市)
- 27日 オホーツク町村議会議長会
定期総会(遠軽町)

3月

- 2日 議会運営委員会
- 7～19日 第1回津別町議会定例会
- 8日 第2回全員協議会
- 12日 議会運営委員会
- 15日 議会運営委員会
- 16日 第3回全員協議会

4月

- 12日 議会広報特別委員会

第2次機構改革に伴う 各常任委員会の所管事務

- 総務文教常任委員会
総務課・住民企画課・会計課・教育委
員会・選挙管理委員会・監査委員・固
定資産評価審査委員会に関する事項
その他産業福祉常任委員会に属さな
い事項
- 産業福祉常任委員会
保健福祉課・特別養護老人ホーム「い
ちいの園」・産業振興課・建設課・農業
委員会に関する事項

— 3月定例会予算補正 —

会計別	今回補正額	予算総額
一般会計	1,098万5千円	53億2,576万4千円
国保会計	△1,000万円	9億5,167万2千円
介護保険会計	60万3千円	4億4,921万2千円
介護サービス会計	1万6千円	2億7,789万1千円
下水道会計	△59万9千円	3億8,934万5千円
簡易水道会計	△58万8千円	5,003万円

補正された主な内容

〈一般会計〉

- 公共施設等整備基金積立金 5,498万円
- 重度心身障害者医療費助成経費 △680万円
(医療費支給実績に伴う減)
- 老人福祉扶助費等 △214万円
(老人バス無料乗車券等の利用実績に伴う減)
- 鳥獣被害防止総合対策事業 △2,593万円
(鹿柵整備事業の精査)
- 町有林整備事業 △543万円
(造林、間伐事業等の精査)
- 道路除排雪経費 571万円
(今後の見込み等による増)
- 道路橋梁維持管理経費 △246万円
(道路橋梁維持作業に係る精査)

〈国保会計〉

- 一般被保険者療養給付費 △1,000万円
(給付費の実績に伴う保険給付費の減)

〈介護保険会計〉

- (地域支援事業費の事業実績に伴う減等)

〈介護サービス会計〉

- (居宅介護支援事業経費の精査に伴う増)

〈下水道会計〉

- (各事業の精査及び実績による減)

〈簡易水道会計〉

- (各事業の精査及び実績による減等)

(△は予算に対する減額を示します。)

は め る ま

大震災、原発事故から1年、被災者には、今をどう生き、暮らしをどう立て直すかめども立たない重く辛い日々が今も続いている。

3月21日開幕の第84回選抜高校野球大会には、女満別高校と石巻工業高校が21世紀枠で出場した。石巻工業高校、阿部主将の選手宣誓は、被災地の辛い現状を誓据えつつも、未来の復興を誓った堂々の宣誓であり、被災地ばかりか日本中を勇気づけるものであった。

気負わず落ち着いた態度と語り口にまず感服、選手皆で考えたという内容は、見る者聞く者すべてに感動と勇気を与えたに違いない。

震災で亡くなった多くの友達や過酷な環境が彼らを急成長させたのだろう。選手それぞれが大変な目に遭いながらも、全国から寄せられた思いやりの道具で練習を重ねてきたそうだ。その支援にこたえ、復興への思いを語った健気さに、琴線をくすぐられたのは私だけではない。

(茂呂竹)